

手術支援ロボット「ダヴィンチ」を2台同時新規導入 (最上位機種 (Xi) 2台同時新規導入は全国初)

横浜市立大学附属市民総合医療センター（南区浦舟町 榑原秀也病院長 病床数 726 床）は、診療機能の向上のため大型かつ最新鋭の医療機器にも対応できる手術室を含む計 3 室を増設するとともに、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を 2 台導入しました。当該手術室における手術支援ロボットを使用した手術は、5 月中旬から消化器病センター（下部消化管）、泌尿器科で開始し、順次、対象疾患（診療科）を拡充していく予定です。

手術支援ロボットは、保険診療の対象となる疾患・手術が年々増加し、高度で安全な低侵襲手術法として期待されています。当院において 2 台導入したことで、より多くの対象となる手術を手術支援ロボットで実施していくことが可能となり、出血量や術後の疼痛も少なく入院期間が短縮するなど、多くの患者さんの QOL（クオリティ・オブ・ライフ）を向上させることが可能になります。

<榑原秀也病院長のコメント>

この度、手術室の増設に伴い手術支援ロボットを導入いたしました。2 台同時に導入したことにより、ロボット支援下手術の待ち期間の短縮や医師の人材育成に取組み、本学附属病院など先行する他施設と同水準の医療を提供することを通じて、市民の皆様や地域の医療関係者の期待と信頼に応えてまいります。

【手術支援ロボットの概要】

・ da Vinci Xi（インテュイティブ サージ カ社製）

- 1) 立体的な 3D HD の手術画像を提供することで術者（医師）は患者の体内を覗き込み、実際に術野に手を入れて操作しているような視野を確保しながら手術を行うことが可能です。
- 2) 術者がロボットアームに装着されている 3 本のインストゥルメントを操作することで、精緻な手術を行うことができます。



<増設手術室及び da Vinci Xi>

【増設手術室の概要】

- ・ 工事概要：本館 3 階（リハビリテーション室跡地） 約 560 m²、手術室 3 室、スタッフ室等
- ・ 工事工期：令和 2 年 9 月～令和 3 年 3 月

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 横浜市立大学は、様々な取り組みを通じて SDGs の達成を目指します。

